

主催者挨拶

公益財団法人日本海事センター会長の宿利正史です。第3回 JMC 海事振興セミナーの開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

日本海事センターでは、本年3月から、従来の「海事立国フォーラム」に加え、新たに「JMC 海事振興セミナー」をスタートし、6月15日には「RCEP 下とポストコロナの東アジア物流の展望」をテーマに、第2回セミナーを開催いたしました。

今回も前2回と同様に、大変多くの皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本日は、「国際物流における我が国の貿易電子化の現状と展望」をテーマに開催いたします。

近年、新しい技術であるブロックチェーン技術を活用して、貿易関連情報をシームレスかつリアルタイムに共有化する、デジタルトランスフォーメーション（DX）による物流ネットワークの構築の動きが広がっています。これに伴い、国際物流の効率化や新たなサプライチェーンの構築など、様々な効果が期待されており、国際物流を変革する動きとして大いに注目されています。

また、国内では、港湾においてサイバーポートの全国運用が開始され、港湾物流手続きの電子化が進んでいるほか、税関においても輸入者の電子データによる帳簿保存を認める制度改正がなされ、さらに、法務省を中心に船荷（ふなに）証券の電子化に向けた法改正の動きがあるなど、貿易完全電子化の実現と新たな貿易関連サービスの展開が見込まれています。

本日の JMC 海事振興セミナーでは、このような状況を踏まえ、我が国においてその最先端を行くブロックチェーン技術の専門家及び貿易情報連携プラットフォームを開発・推進する企業をお招きし、「国際物流における我が国の貿易電子化の現状と展望」について、皆様と共に最新の情報を共有し、考察を深めたいと思います。

本日は、最初に流通科学大学名誉教授の森先生に「海事・貿易の電子化の現状」について基調講演をしていただきます。

次に、神戸大学大学院准教授の平田先生から「ブロックチェーン技術」について、続いて株式会社トレードワルツの小島社長と A.P. モラー・マースクの市村（いちむら）アジア太平洋地域プロダクトマネージャーから、代表的な「貿易情報連携プラットフォーム」についてご発表いただきます。

最後に、森先生に本日のセミナーの総評と皆様との質疑応答をしていただく予定です。

本日のセミナーがご参加いただきました多くの皆様にとって真に有益なものになりますことを期待いたしまして、私の冒頭の挨拶といたします。

本日は、誠にありがとうございます。